

2018月3月 マニプールコロニーワークキャンプ報告書



【活動日程】 2月20日～3月7日

【活動場所】 インド西ベンガル州プルリア地方マニプールハンセン病コロニー

【参加者（日本）】計7人 谷澤沙南（筑波大学1年）、白水健太（立教大学2年）、袴田恵未（筑波大学1年）、中西烈（筑波大学2年）、齋藤優里香（筑波大学1年）、町田結希乃（筑波大学1年）、八木咲良（筑波大学1年）

【活動報告】

《ワークプロジェクト》

《概要》雨季になると水没する道路を、水が池に流れるように傾斜を作る修繕・改修を行った。また、以前 namaste!がつくったごみ集積所（通称ダストビン）の清掃を行った。具体的にはスコップで溜まったごみを掘り起こし、トラックで運ぶ作業を行った。

＜道路の修繕・改修＞

《目的》雨季になると道路が水没してしまい、住民の生活に衛生上かつ安全上リスクを与える可能性があるということで村長のダス氏から修繕・改修の要望があった。そこで道路の修繕・改修を行い住民の危険を取り除くことを目的に本ワークを行う。

《成果》期間内に修繕・改修を終えることができた。ワーカーを3名雇い、日本人キャンパ

一は村人ともにセメントづくりや砂を運ぶなどの作業を手伝った。ワーカー、村人と協力して効率よく作業を進めることができた。



(現地の技術者と協力して修繕・改修を行っている様子)

<ダストビン清掃>

《目的》現在ごみが溜まりっぱなしになっているダストビンがゴミ箱としての機能を取り戻せるようにすること。また、村人にも協力を促すことでごみ問題に対する自助意識の形成を目指す。

《成果》予想以上に清掃に時間がかかったことなどの理由で、予定通りにすべてのごみ箱の清掃を完了することはできなかったが、多くの村人の協力を得ることができた。村人の意識改善に関しては長期的な啓発運動等が必要になると考える。今後定期的に清掃を行うか、もしくは他の方法を採用するかは検討が必要である。



(ダストビン清掃を行っている様子)

《水質調査プロジェクト》

《概要》これまで **namaste!**が作成した三つの井戸の水質調査を、調査キットを用いて行った。調査項目は、**ph**、**COD**、全硬度、鉄、亜硝酸、亜硝酸態窒素である。

《目的》前回、村人に対するヒアリング調査により、**namaste!**が作成した三つの井戸の水質を懸念する声があった。そのため水質状態や問題を明らかにし、今後の対応を考える。

《成果》体に悪影響があると考えられる **COD** と亜硝酸態窒素の値が基準値を超えていることがわかった。今後は **namaste!**の井戸と同時に政府の井戸も調査を行い、より詳細な水質の調査を行ったうえで今後の対応を考えていくべきである。その結果によっては専門家に調査の委託を頼み、使用の是非の検討を行う必要がある。

《エンタメプロジェクト》

《概要》村人・日本人キャンパーが出し物を出し合えるパーティーを開催する。

《目的》多くの人が集まる場でみんなが楽しめる行事を行い、村人が特技を発表する機会を設けること。ワークキャンプに協力してくれたことに対する感謝を伝えるため実施する。

《成果》前回と異なり、屋外での開催となったこともあり沢山の人が集まってもらえることができた。日本人キャンパーも2曲、「ソーラン節」と「ジョイフル」を披露しとても盛り上がった。



(パーティーにて村長のダスさんと村人と)



(子供たちがダンスを披露している様子)